

平成27年度長期社会体験研修

キャリア教育リーフレット

「聴くことと話すこと」

～コミュニケーションの基本を学ぶ～

一年間の長期社会体験研修

研修先 「上毛新聞社」

長期社会体験研修員として今年度 株式会社上毛新聞社編集局で4月から一年間研修を行った。研修で実践した取材活動や現役記者の意見をもとにコミュニケーションの大切さや必要なことを学んだ。

研修で学んだ成果を学校生活と社会生活に関連付け、「聴くことと話すこと」をテーマとしてキャリア教育に結び付けて伝える。



記事を書く研修生



取材中撮影する研修生

コミュニケーションの基本

高校生に身に付けて欲しいコミュニケーションの基本として①相手に関心を持つ②傾聴する③自分も相手も大切にしたい表現方法の3点を挙げる。いずれも新人研修や取材活動などを通して必要だと実感したことである。

相手への関心

取材対象は年齢や職業などが幅広く、ほぼ初対面の人になる。入社1年目の女性記者は「相手に興味を持つことが取材するときには大切」と話す。相手に関心や興味を持つと、多くの聞きたいこ

とが湧いてくる。相手に関心を持つことがコミュニケーションの第一歩になり、より良い人間関係をつくる大前提は、相手を理解することにある。

「聴く」ことは

人と話をするときに重

大切な表現方法

コミュニケーションの表現方法には「自分が大切」「相手が大切」「自分も相手も大切」の三つに分けられる。良い関係を意識したコミュニケーションを取るためには、「自分も相手も大

切」という考え方が重要となる。編集局長は新人研修で「表現方法の基本は、WIN-WINの関係づくりが大前提。大事なことは自分の考え、気持ちを適切につかみ、率直に言い相手に伝えること」であるとし、自分も相手も尊重する人間的な関わり合いがコミュニケーションにおいて大切だと強調する。

意識から実践へ

ここに挙げたコミュニケーションの基本はごく一部にすぎない。また、一朝一夕に身に付くというものではない。高校生という早い段階から「相手に関心を持つ」、「傾聴する姿勢」、「自分も相手も大切にしたい表現方法」の3点を意識して毎日の生活で実践することで、社会人として必要なコミュニケーションの基本が備わると考える。

コミュニケーションを学ぶ

表現方法のうち「自分も他人も大切にすることの重要性について説明したが、具体的に、どのような表現なのか下記の問題を通して考えてみる。

例えば、自分を大切にしていた表現として「いつまで待たせるんだよ、時間を守れよ」と攻撃的な言い方になり、自分はずつきりするかもしれない

自他尊重の表現

あなたがどう言う？

「自分が相手の気分は悪い。相手を大切にしたい表現では「ううん、別に気にしないよ」と自分の気持ちを出さない言のうのため相手の気持ちはずつきりするが、自分に不快が残る。では、自分も相手も大切にする(ずつきりする)表現方法はどうか、考えてみよう。

問題

仲の良い4人で映画を見に行く約束をした。当日、高崎駅で9時に待ち合わせをしたが、Bさんが9時を過ぎても来なかった。9時30分になったころやっと到着。

Bさん

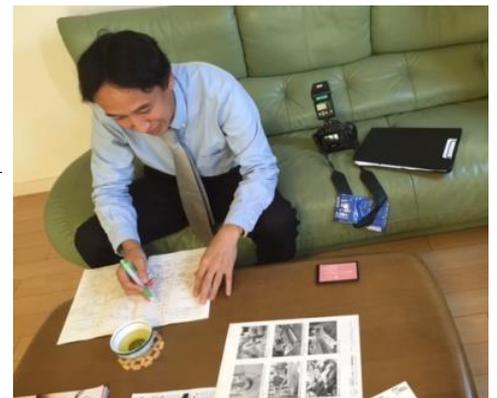
「ごめん、ごめん遅くなっちゃった」

あなた

「.....」

今から身に付けて欲しいこと

～現役記者に聞きました～



取材中の研修生

上毛新聞社の記者の方々からコミュニケーションを取るにあたり、高校生の今から身に付けて欲しいことを挙げてもらった。

記者としてではなく社会人として当然身に付けていなければならないことが多く、どの職業でも同じことが言える。

企業が求める人材は

上毛新聞社が「求める人材はどのような人物か」人事担当に聞いた。同社が求める人材像として下の表の4点が挙げられた。注目する点は、①の「相手ときちんと向き合える人」という点である。これは、言い換えれば、コミュニケーションがきちんと言え

会社という組織の中で働くために、様々な人たちとコミュニケーションを図り、正しくかつスムーズに話を進め、協力、共同して色々なことに取り組むことが大切だといえるだろう。多くの企業で、コミュニケーションは社会人に必要な力として求められている。

上毛新聞社が求める人材像

- ① **相手ときちんと向き合える人**
- ② 指示待ちではなく自分自身で動く人
- ③ 自らを向上させていく意欲を持った人
- ④ 群馬の将来を熱く考えられる人

- 謙虚であること。 (入社28年目 男性)
- 相手の話していることを正しく理解する能力。 (入社18年目 女性)
- 相手にわかりやすく伝えること。 (入社12年目 男性)
- 自ら発した言葉がどういった印象を抱かれるかを推測する能力。 (入社10年目 男性)
- 英語。世界を広げるのに重要なツール。 (入社10年目 男性)
- 礼儀の大切さ。 (入社17年目 男性)
- 知る喜びを持つ。 (入社15年目 女性)
- 相手に対して笑顔で感じよく接すること。 (入社11年目 女性)

企業を学ぶ

有名スポーツ選手を取材できることも記者のやりがいや充実感につながる。II写真 新日本プロレス小島聡選手



上毛新聞社の記者に、記者として働くやりがいや充実感について聞いた。現場記者は、「自分が取材したことを新聞の記事として伝えることに達成感を感じる。さらに、取材対象者を含めて多くの人の反響や反応などが、自分のやりがいにつながっている」と語る。県内4割のシェア、発

行部数約30万部の重みがのしかかるが、世の中の流れ、郷土の歴史や文化、各界で活躍する人物の話などを読者に伝えることを使命とし、上毛新聞社全体で連携して取り組んでいるという。実際に記者として働き、協力、共同、責任の大切さを学ぶとともに新聞社で働く魅力を体験することができた。

現場記者が語る
「働くことの魅力」

記者が語る「働くことの魅力」

- 地域の多くの方と接する機会が多く、その人たちの声を記事にできること。(入社28年目 男性)
- 世の中の流れや傾向に、自分の考えを加えることができる。(入社19年目 男性)
- 記事によって県民の生活が豊かになることや困っていることが解消されたと感じたとき。(入社18年目 女性)
- 感動の場面や事件の現場など最前線で仕事ができること。(入社13年目 男性)
- 様々な境遇の人から話を伺え、これまでの生き方や専門的な知識を学べる場所。(入社10年目 男性)
- 郷土の歴史を記録していくを通し、歴史や文化や住む人への理解を深めることができる点。(入社10年目 男性)
- 政治家・社長・スポーツ日本代表など各界で活躍している人物の話が聴くことができる。(入社7年目 男性)
- 記事が掲載された後の取材対象者や読者の反応。(入社3年目 女性)
- 記事にすることで、県内各地の人々に届けられること。(入社5年目 女性)
- 自分がその場にいないければ、世の中に出ることがないニュースがあるということ。(入社1年目 女性)

企業が行う社会貢献・地域貢献活動

上毛新聞社の取組の一例を紹介する。

記事



群馬県の地元紙として、地元を意識した「地ネタ」主義の徹底として県内関連のニュースを最優先した紙面構成。広告媒体としても広く活躍する。

イベント開催



ぐんま県民マラソンやぐんまイノベーションアワードなどの主催や、文化・スポーツ事業等の共催、講演を行う。

出版



食べ物やスポーツなど群馬の魅力伝える多彩な出版物を取り扱う。詩集や歌集、自伝などの幅広いジャンルの自費出版も手伝っている。

新聞社（情報通信業）で働くには

新聞社は、一つの事実を確かめ、今この一時を歴史に刻み、社会に提言する使命がある。新聞社で記者として働きたいと思っっている高校生に向けて、新聞社の採用情報と新入社員の一年を紹介する。

○採用までの主な過程

採用試験に関して
募集している職種は、
編集記者・広告営業な
どの業務である。配属
先は入社後に決定。
応募資格は4年制
大学卒業見込み、また
は4年制大学を卒業
した入社時の年齢が
28歳以下とあるよう
に、記者として働くに
は大学への進学を目
指した進路選択をし
なければならない。

○新入社員の一年

平成27年度の新入
社員8名は4月1日
入社式を迎え、新人研
修を受け、各部署へ配
属となる。
配属先の現場実務
研修で記者、カメラマ
ンとしてスキルアッ
プを図っている。
4月からもうすぐ1
年がたつ。現場の新入社
員の顔つきはたくまし
く、頼もしくなってきた
のを感じた。

説明会（各地）

- ⇒【2015年3月～】エントリー
- ⇒【6月～7月末】入社志願書提出
- ⇒【8月】筆記試験
(一般教養・作文(800字))
- ⇒1次面接(集団)
- ⇒最終面接(個人)

上毛新聞社採用までの流れ(2016年度採用)

【4月】

入社から3週間新人研修
会社の全体像(各部所の説明)・局長
講話・マナー講習・販売店研修など

⇒配属先実践研修

【10月】

1年目・8年目社員合同研修

上毛新聞社 新入社員研修

研修後記

研修は実務研修が中心で、取材活動を通して約200本の記事を書き、新聞記事として掲載させて頂いたが、ひとえに上毛新聞社の皆様のおかげである。リーフレットは各部署で行った取材活動や現役記者の意見を通して得た知識をもとに作成した。人間関係形成・社会形成能力に視点をあてコミュニケーションスキルではなく、人と接するための基本を中心としてまとめた。研修先企業が求める人材、高校生である今から身に付けて欲しいこと、働くことの魅力などについて、本リーフレットをもとに理解して欲しい。

各学校でのキャリア教育の一つの指導書となれば幸いである。

研修先紹介

株式会社 上毛新聞社

- (1) 所在地：群馬県前橋市古市町1-50-21
＜総局＞東毛総局(太田)
＜支社＞高崎・東京(以上報道、営業部門併設)・大阪(営業部門のみ)
＜支局＞前橋・桐生・伊勢崎・太田・沼田・館林・渋川・藤岡・富岡
・安中・わたらせ(みどり市)・中之条・大泉
＜印刷工場＞伊勢崎
- (2) 設立：1887年11月
- (3) 資本金：3,648万円
- (4) 従業員数：384人(男287人・女97人)
- (5) 平成27年度採用実績：大学卒8人(男3人・女5人)
- (6) 事業内容：日刊新聞発行、書籍出版、イベント運営企画、インターネット関連

(平成27年3月現在)



上毛新聞社本社(前橋市古市町)